

ふくしながの

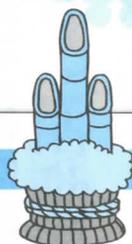
ふれあいネットワーク



地域福祉を支える 「寄付」と 「社協の役割」



目次



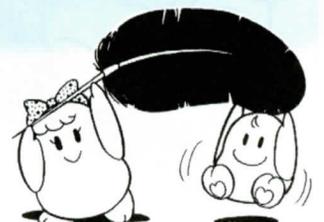
特集

地域福祉を支える「寄付」と「社協の役割」	2~5
長野市社会福祉協議会の平成29年を ふりかえる	6~7
相談窓口	8
ご寄付のお礼	8
賛助会員募集のお願い	8
クイズ	8

毎年多くの皆様からご協力をいただいている「赤い羽根共同募金」や「日赤活動資金」といった寄付金は、地域福祉を支える大きな力となっています。

今号では、これらの「寄付」を取り上げて、そもそもの目的や資金が循環するしくみ、社会福祉協議会が窓口となっている意義について特集します。

「ふくしながの」は
共同募金からの
配分金で発行しています。



特集

地域福祉を支える「寄付」と「社協の役割」

～赤い羽根共同募金と日赤活動資金から見る「資金循環のしくみ」と「社協の役割」について～

現在、私たちの身近なところでは一人ひとりが安心して暮らせる地域を目指した様々な取組が行われています。

特に、ボランティア・市民活動団体による地域課題を捉えた取組のほか、各地区の住民自治協議会や自治会・町内会等で実践されている地域福祉や安心・安全を守る取組は、「互助」や「共助」の取組として、私たちの日常を支える大きな力となっています。

今回の特集では、長野市社会福祉協議会が窓口となっている「赤い羽根共同募金」と「日赤活動資金」の二つの「寄付」を中心に、「資金循環のしくみ」や「社協の役割」について考えます。

地域のために地域で支えあう「協働のしくみ」へつなぐ赤い羽根共同募金

戦後間もない一九四七年(昭和二十二年)に「国民たすけあい運動」として開始された共同募金は、当初は戦後復興の一助として被災孤児など生活困窮者の支援に充てられてきました。

その後、時代の要請に合わせて、子どもの遊び場、障がい者の小規模作業所、高齢者等への在宅福祉活動、そして現在のような多様な地域福祉活動を支える募金へと、柔軟にその役割を拡大・変化させてきました。

長野市においても、地域福祉に係る諸団体をはじめ、自治会や町内会等の地縁組織や地域の皆様のご協力のもとに実施され、いただいた寄付は地域の身近な福祉活動を支える大きな力となっています。

誰でも地域福祉に参加できる身近な社会貢献として

社会福祉法の定めにより、翌年度に実施する予定の事業計画に基づいて目標額を設定し、毎年十月から十二月までの間、皆さんがお住まいの自治会や町内会をはじめ、街頭や学校での募金活動が行われます。

寄せられた寄付金は長野県共同募金会に一度集約された後、広域で実施される事業と各市町村の区域で実施される事業を中心に配分されます。各市町村へは、各区域の社会福祉協議会を

通して配分され、長野市では住民自治協議会が行う福祉活動や自治会・町内会などの防災体制整備などに役立てられています。

このように、地域福祉の取組についての募金と助成が一体となり、子どもからお年寄りまで、様々な地域住民が参加できる最も身近な社会貢献のしくみとなっていることが、赤い羽根共同募金の大きな特徴です。



特集

お互いさまの関係で地域を支える
資金循環のしくみ

共同募金は、元々が地域課題や社会問題の解決を図るために「お互いさまのたすけあい」を理念に地域住民や関係機関・団体と協力して取組が進められてきました。

そのような経緯から、各地区の住民自治協議会を通して自治会や町内会でお声掛けさせていただきます。

より広く、より多くの皆さんにお声掛けさせていただくのは単なる寄付のお願いだけでなく、地域福祉への関心を高めるための啓発活動としての側面を持つているからです。地域の中で声を掛けていただくことは、「お互いさま」の関係づくりを進めるための大切な機会だと考えます。

様々な地域関係者の主体的な参加を促し、地域課題解決のための活動をつくり、「地域における協働」として定着させていくことを、募金活動を通して推進しているのです。

まさに「地域のために地域で支えあう」地域での資金循環のしくみと言えるのではないのでしょうか。



共同募金が活用されている取組の一例



子育て・子育て支援の取組

未就園児やその保護者などを対象に、お互いの交流や保健師によるアドバイスなどを行うことで、子育ての不安や悩みを軽減させることを目的に実施しています。



介護者支援の取組

介護にちょっと疲れた方が「ホッとひと息」出来るつどいの場です。日頃の悩みを共有し、専門職によるアドバイスや介助のコツを学ぶ機会を提供することで、日々の介護をそっと後押しします。

「いのちを救う」活動を支える大きな力
日赤（日本赤十字社）活動資金

赤十字の取組は、イタリア統一戦争で傷ついた兵士を目の当たりにしたスイス人実業家であるアンリー・デュナンが、戦場の周辺の住民たちと一緒に敵味方の分け隔てなく救助活動を行ったことに始まります。現在は世界百九十の国と地域で人道支援を目的とする活動をしています。

日本では、西南戦争の際に傷ついた兵士を救うことを目的に活動が始まりました。その後、

磐梯山の噴火の際にも救護活動を行っていました。自然災害に際して赤十字活動が実施されたのは、世界でも日本が初めてでした。

現在は「日赤（日本赤十字社）」の名称で親しまれ、前身の博愛社から数えて、平成二十九年五月で創立百四十年を迎えました。

災害支援や病院のイメージが強い「日赤」ですが、主に次の三つの領域で活動をしています。

特集

いのちを救う活動

自然災害、紛争、飢餓、病気等からひとりで多くの命を救うための医療や災害救護活動を行っています。

国内災害救護・国際活動・赤十字病院・血液事業・救急法等の講習



せいかつを支える

全国で児童・高齢者・障がい者福祉施設を運営しながら、ボランティアの皆さんと一緒に、地域に密着した活動を行っています。

社会福祉・赤十字ボランティア

こころを育て

苦しんでいる人を救うため、看護師の育成や赤十字ボランティアの活動を広げます。

青少年赤十字・看護師等の教育

これらの日赤の活動を支えているのが毎年五月に皆様からご協力をいただいている「日赤活動資金」です。

各地区の住民自治協議会を通して自治会や町内会でお声掛けさせていただき、ご協力いただいた資金は日赤長野県支部へ集約され、災害救

護や赤十字ボランティアの取組等に役立てられています。

日赤活動を地域で支え
住民に寄り添う赤十字奉仕団

東日本大震災や熊本地震等の度重なる災害時には日赤の災害救護活動がクローズアップされましたが、その活動をフォローしているのが、日頃から地域に根ざした活動を展開している赤十字奉仕団です。

一例として、長野市内で昭和六十年に発生した地附山地すべり災害を取り上げます。

七月二十六日午後五時ごろ、ゆっくりと動き始めた斜面は、巨大な土の塊となって、湯谷団地や特別養護老人ホーム松寿荘等に押し寄せました。

当時、日赤長野県支部は発災と同時に災害対策本部を設置し、長野赤十字病院の救護班等を派遣しました。現地では被災者の救急搬送や避難所での医療支援等を迅速に行いました。



活動は八月十日までの十六日間続けられ、百五十二名の傷病者への支援を行うとともに、避難所では毛布や日用品のセット等を被災者に配付しましたが、この活動が円滑に実施出来た裏側には、地元の赤十字奉仕団による現場での細かいフォローがあったのです。

現在、市内には二十七の赤十字奉仕団（地区

分団）があり、地域での安心・安全を守る取組に大きな役割を果たしています。

日頃から災害時を想定した炊き出し訓練や、地域のお祭りの救護所の対応のほか、公民館や公園の清掃活動など、地域に根ざした取組を地道に続けてきたことで、支援を行う体制が整っていたことが功を奏したと言えます。

いのちを救うための
人道支援に活用されています

今回紹介したように、日本赤十字社は国際支援や被災地での医療支援等を行う数少ない「人道支援」を行う組織です。

国内・海外問わず、ひとたび「いのちの危機」が発生すれば、迅速に対応し被災者に寄り添っていくことが赤十字の使命です。

皆さんからご協力いただいた日赤活動資金は、紛争や災害等により今もこの瞬間どこかで苦しんでいる方を救うための取組を支える大きな力になっています。



特集

地附山地すべり災害について
当時の様子をお聞きしました

ご自身も被災し、現在は赤十字奉仕団第二分団のメンバーである小山小雪さんにお話を伺いました。



「地滑りが発生した後、すぐに湯谷小学校の体育館へ避難をしました。

そこでは家を流された人、ケガをした人等、様々な方が避難をされていました。体育館の中は災害への恐怖と悲しみ、また、今後への不安など重たい空気がいっぱいでした。

避難所では白いかっぱ着の赤十字奉仕団の方々が、炊き出しのおにぎりや温かいお茶を差し入れてくれ『ホッ』としましたよ。

また、それ以上に、赤十字奉仕団の方からの『大丈夫でしたか』『無事でよかったです』という優しい言葉や気遣いがとても身に染みました。」

その後、赤十字奉仕団の必要性を強く感じた小山さんは周囲の方々と共に湯谷団地内で赤十字奉仕団を結成し、当時の想いを胸に、現在も精力的に活動に取り組んでいます。

まとめ

地域福祉へ参画する
ひとつの方法



赤い羽根共同募金は、身近な募金として子どもからお年寄りまで多くの方のご協力のもとに、地域の福祉活動に役立てられています。

また、昨年度までは「日赤社資」としてご協力をいただいていた日赤活動資金は、赤十字活動の安定的な実施に寄与しています。

このように皆さんからの寄付が地域福祉を推進するための大きな力になっていることは十分にお分かりいただけたと思いますが、大事な点は寄付をすること自体が「地域福祉へ参画する一つの方法」だということです。

地域福祉を推進するためには、行政や社協、福祉事業者だけでなく、企業やNPO、ボランティア・市民活動団体、地域住民などの「地域福祉の担い手」が様々な形で活動に参画することが大切です。

担い手それぞれが、ほんの少しでも出来ることを出来る範囲で実践するひとつの方法としての「寄付」なのです。



社会福祉協議会の役割

社会福祉協議会が赤い羽根共同募金と日赤活動資金の窓口となっているのは、皆さんからの寄付をもとに資金の循環を進め、身近な地域での福祉活動や、いのちを救うための人道支援活動を充実させることで、私たちが取り巻く福祉の向上を図っているからです。

さらには、これらの取組に対する寄付を呼び掛ける過程において、福祉への関心を高め、多様な担い手の参画を促しながら、「より大きな地域福祉推進の波を作っていく」ことが、私たち社協が目指すところでもあるからです。

今回は社会福祉協議会が窓口となっている二つの「寄付」について取り上げましたが、ご協力いただいた一人ひとりの「気持ち」が地域福祉を推進する取組を支えています。新年にあたり、今回の特集が身近なところから福祉を考える機会になれば幸いです。一緒に「福祉のまちづくり」を進めていきましょう！



長野市社会福祉協議会の



◀白熱したパネルディスカッションの様子



◀各地区の取組は様々です

小さな「気づき」が 大きな「つながり」に

平成29年6月21日（水）、長野市東部文化ホール（長野市柳原）において地域福祉推進セミナーを開催しました。福祉推進員、民生児童委員、住民自治協議会役員、ケアマネジャー、福祉に関心のある方を中心に約270名が参加されました。

今回は、私たちの日常で起こるちょっとした困りごとが、実は地域全体で向き合う課題であり、一人ひとりの「気づき」が地域福祉を实践するための大切な起点となることをテーマに行いました。

元高島市社会福祉協議会事務局長の井岡仁志氏による講演があり、地域で実践的に活躍されている方々から、それぞれの立場における「気づき」ための視点や、関係者に「つながり」ためのプロセスについて実践事例を通して学ぶ機会になりました。

また、会場には、各地区の福祉推進員の皆さんが作成した活動報告の展示コーナーを設け、各地区の取組を報告するとともに情報交換の場となりました。

仲間と一緒に日々の 介護ストレス解消

在宅で介護をしている介護者の相互交流と心身のリフレッシュを図ることを目的としたリフレッシュのつどい事業は、今年度で27回目の実施となりました。10月中旬に、宿泊（富山県魚津市）と日帰り（新潟県長岡市）の2コースの形式で行い、総勢120名の皆さんが参加され日々の介護に関する情報交換や参加者同士の交流を深めました。

参加された皆さんからは、「いろいろな方の苦労を知ることができた。話に共感できるところも多かった。悩みも聞いてもらえて、いっぱい笑うことができて楽しかった。情報収集もできました。」「部屋の皆さんの苦労話を聞き、また明日から頑張ろうと思えました。思いっきりフレッシュできました。」といった感想を多くいただいています。

また、本事業に併せて、より身近な交流の場づくりを目的に介護者のつどいを実施しています。リフレッシュのつどい事業と同様に、多くの皆さんに参加いただいております。



◀お互いにねぎらいながら明日への英気を養います



◀広い海原を眺めて「ホッとひと息

平成29年をふりかえる

支え合いのきっかけづくり

◀元気な声で「ただいま」「おかえり」



様々な福祉課題が取りざたされる中、子どもをめぐる多様な課題が顕在化し、市内でも「子ども食堂」の開設や、無料の学習指導など、居場所づくりを含めた活動が行われています。

本会でも今年度新たに、柳町介護サービスセンターにおいて「柳町カフェ」を開催し、子どもたちに栄養のある食事や温かな団らんの間を提供するほか、「子どもを守る安心の家」に登録し、利用者の方が下校する児童の見守りをするといった活動に取り組んでいます。また、夏祭りを開催し、地域の子どもを招く中で、子どもの居場所づくりと世代間交流の場になりました。

夏祭りに参加した利用者から「孫みたいな子と話ができて元気をもらった。」といった声をいただきました。

世代を超えた交流を通じて、多様なつながりを生み、地域で支え合えるきっかけづくりに今後も取り組んでいきます。



ボランティアの第二歩

7月下旬からの約1カ月間、市内の福祉施設、医療機関、NPO、ボランティアグループ等でのボランティア体験をプログラム化したサマーチャレンジボランティアを実施しました。

誰もが気軽にボランティア活動の第一歩を踏み出すことを目的に、中学生以上に参加を呼びかけ、今年度は約300人が参加し、その半数以上の方が「ボランティア初体験」でした。

参加者からは、「ありがとうと言ってもらえて役に立っていると実感した。」「今まであまり地域の人と触れ合う機会がなかったので貴重な経験になった。」など参加して良かったという声が多く、また、受入先側からも「ボランティアさんがいることでいつもと違う世代との交流ができ、利用者さんが喜んでいた。」「意欲的な参加者で、すばらしかった。」など好評で、相互に良い刺激になりました。

事後研修会では、参加者と受入先の方が一緒に活動を振り返り、お金では決して買えない心の財産をこれからの生活の中で誰かのために活かしたいなどと想いを語り合いました。

◀ボランティアのお兄さんに子どもたちも大喜び



◀みんなで活動を振り返りました



お困りの方どなたでもご利用いただけます。
(ただし長野市在住又は長野市在勤の方に限ります。)

●相談は無料 秘密は厳守します

※いずれも祝・休日、年末年始(12月29日～翌年1月3日)はお休みです。

社協の相談

長野市生活就労支援センター“まいさぼ長野市”

* 困窮や孤立・困りごとはなんでも! 生活困窮者の自立支援から総合的な相談まで「なんでも」受け止めます。
* 原則予約制 (まずはお電話でお尋ねください。)

- ▶ 相談日時 月～金曜日 8:30～17:15
- ▶ 場所 長野市ふれあい福祉センター 2階
- ▶ 電話番号 219-6880
- ▶ e-mail maisaponaganoshi6880@csw-naganocity.or.jp

いつも傾聴でんわ

かけてくださる方の心に寄り添って、お話を聴き取る電話です。専門の研修を受けたボランティアがお聴きします。

- ▶ 利用日時 毎週月・土曜日 14:00～18:00
毎週水曜日 14:00～21:00
- ▶ 電話番号 225-0404

「賛助会員」募集のお願い

本会は地域福祉を推進する中核的な団体として、住民の皆様の参画をいただきながら住民参加・協働による福祉を基盤としたまちづくりを推進していますが、より充実した活動をしていくためには、より多くの自主資源の確保が必要です。つきましては、広く個人、団体、企業等の皆様に賛助会費制度にご加入いただきますようお願い申し上げます。

年会費 個人賛助会費(1口) 5,000円

団体賛助会費(1口) 10,000円

※いずれも年額です。何口でもご加入いただけます。

◆入会についてのお問合わせ先

総務課総務担当 電話 225-1234

問題

「共同募金の羽根は〇色」
○に入る色をお答えください。

「ふくしながのクイズ」で
図書カードを当てよう

- 答え・氏名・住所・年齢・性別・ふくしながのや本会についてのご意見。取り上げて欲しい情報等をハガキに書いて左記までお送りください。
 - 抽選により10名の方に「ふくしながのオリジナル図書カード」をプレゼントします。
 - 締め切りは2月1日(木)です。
 - 送り先 〒3800081-3 長野市大字鶴賀緑町17145
- 長野市社会福祉協議会「ふくしながのクイズ」係

きぼう相談 * 電話・面接いずれも可 予約不要

相談員が生活の中で感じる不安や悩みなどさまざまな相談に応じます。

本都会場

- ▶ 相談日時 毎週火・金曜日 9:00～16:00
- ▶ 場所 長野市ふれあい福祉センター 2階 きぼう相談室
- ▶ 電話番号 226-8200 (相談日のみ利用可能)

篠ノ井会場

- ▶ 相談日時 毎週月曜日 9:00～16:00
- ▶ 場所 篠ノ井地区ボランティアセンター
- ▶ 電話番号 292-1151 (相談日のみ利用可能)

法律専門相談 * 面接のみ 予約が必要 (同相談は、お一人1回限りとなります。)

弁護士に困り事などを相談できます。

- ▶ 相談日時 毎月第3金曜日 13:00～15:00(変更有)
- ▶ 場所 長野市ふれあい福祉センター 2階 きぼう相談室
- ▶ 予約受付電話番号 226-8200(本部) (きぼう相談実施日のみ利用可能)
292-1151(篠ノ井)

※上記、きぼう相談実施日にご予約ください。

ありがとうございます

平成29年4月から11月までにご寄付いただいた方々をご紹介します。

いただいた寄付金品は、長野市の社会福祉の向上や本会の事業のために、活用させていただきます。

- 長野モラロジー事務所 様
- フジモト HD 株式会社 様
- 長野県厚生農業協同組合連合会
- 南長野医療センター 新町病院 様
- 玄証院 福島 貴和 様
- (株)日興商事 うるおい館 様
- 大和リース株式会社 長野営業所 様
- NTT 労組退職者の会 長野地区協議会 様

